

生徒の声が新聞に掲載

今年、新聞に掲載された記事を紹介します。

「仕事の大変さ体験し実感」との題で山形新聞（8月25日付）投書欄に安部美里（2年2組）の文章が掲載されました。

仕事の大変さ体験し実感

■2年 安部美里

ある美容室でインターンシップ（体験実習）をさせていただいた。将来、美容師になりたいと思っている。今回の研修機会をうまく使っていた。

ここでは、三つ編みなどの髪を編み方や巻き方、カットの仕方などを教えてもらった。難しくてもあったが、できないこともあったが、お店の方が丁寧に教えてくださったので、楽しく体験できた。

2日間という短い時間だったが、将来のためにたくさんのお客さまに教えることができた。一番に学んだのは、やはり仕事の大変さだ。

ずっと立ちっぱなしだったので、腰が痛くなり足はバレーボール部に所属している。毎日の練習で体力には自信があった。しかし、今以上に体力が必要だと気が付かされた。

美容師の仕事はそれほど重労働ではないと思っていた。正直、学校で勉強しているよりも働いている方がいいと思う。

いいと、うややましく思った。だが体験を通して、働くということとは自分の好きなことであっても大変なのだ。と知った。家族や先生から何度も言われていたことが、体験して初めて身に染みて感じた。

私が目指す美容師の方たちは、毎日の立ち仕事で、それも一瞬も怠ることをなくお客さまに気を配っている。一方、私たちは日常ほとんど座って授業を受けている。それにもかかわらず、時にやる気が出なったり、眠くなったりする。そう考えると、まさに今の自分では、やるべきことをしっかりとやっていくことが思う。

授業中は授業に、放課後は部活動に今まで以上に集中して頑張っていきたい。そして将来、お客さまに対して笑顔で接し、お客さまにも笑顔になっていただけるような美容師になりたい。その夢を必ず実現させていこうと思う。

8月25日付 山形新聞

（掲載許諾済）

生徒の声が新聞に掲載2

「自ら人と関わる努力を」との題で山形新聞（8月26日付）投書欄に伊藤綾乃（2年2組）の文章が掲載されました。

自ら人と関わる努力を

■小国高2年 伊藤綾乃

6月25日付の「私の主張」に掲載された「うまく伝

える努力心がける」という投稿記事を読んだ。聴覚に

障害のある高校生が投書したもので、コミュニケーションをとることを面倒からず、聴覚障害者に「もっと話し掛けてほしい」という内容だった。

私は今まで、聴覚に障害のある方と接したことがほとんどない。その人たちが

どのような悩みを抱えているのかということも、深く考えたことがなかった。だがこの記事をきっかけに、無関心ではいられないと思うようになった。

私は高校を卒業後、進学したいと考えている。1年半後には、自分が生まれ育った街を離れることになると思う。今までは自分のことだけで精いっぱい、周りに目を向ける余裕がなかった。しかしこれからは、さまざまな人の立場に立つて考えられるよう努力していきたい。

これまでは無関心だったとしても、障害のある人たちとコミュニケーションをとることにしてもっと積極的に関心を持つようになれば、きっと社会が変わっていくはずだ。

いつの日か「心のバリア

フリー社会」を実現していきたいと思う。まず自分から人と関わる努力をし、相手に自分の思いを伝えられるよう心掛けていきたい。

8月26日付 山形新聞

（掲載許諾済）